

特別展

豊かな森の住人たち

ワークシート

こたえ

詳しい説明

問1. 四国山地緑の回廊モニタリング調査で、確認された哺乳類は何種類でしょう？

答え 2. 22種

四国には約40種の哺乳動物が棲んでいます。緑の回廊にはそのうち約半分が確認されました。確認されなかった種はコウモリの仲間が多いのですが、調査方法を工夫することで生息を確認することができるようになるかもしれません。

問2. 四国山地緑の回廊は、いつ設定されたでしょう？

答え 2. 平成15年

平成15年3月に設定されました。平成15年4月からはモニタリング調査がはじまり、生息している種の把握や、生息状況などについて調査が継続して行われています。調査結果を基に、今後の緑の回廊のあり方について検討がされています。

問3. 緑の回廊として設定される森林の対象は、以下のどれでしょう？

答え 2. 国有林

四国には国有林のほかに、市民や会社が持ち主の「民有林」や高知県が持ち主の「県有林」などもありますが、それらの森林は「緑の回廊」として設定はされません。そのため、四国山地緑の回廊は、石鎚山地区と剣山地区に分かれてしまっています。

問4. 四国にツキノワグマは、住んでいますか？

答え 2. いる

現在、確実な生息情報が得られる地域は、剣山山系のみです。しかし、ときどき石鎚山系での目撃情報があります。かつては石鎚山系にもツキノワグマが生息していた記録がありますので、もしかしたらわずかな個体がいるのかもしれませんが、引き続き情報を集めていきます。

問5. 四国にキツネは、住んでいますか？

答え 2. いる

20年ほど前の調査によると、四国ではキツネの確認地点は高知県と愛媛県の境に集中し、他の地域での情報はとても少なかったです。ところが、ここ最近では徳島県や香川県でもキツネの情報が多くなってきていて、全体的に数が増えてきている傾向があります。その原因は、まだわかっていません。

問6. 展示されている哺乳類の剥製標本は、何点でしょう？

答え 2. 28点

標本のうち、ツキノワグマ以外はすべて四国産の個体です。タヌキやアナグマなどの中型種は、交通事故死体を標本化しました。ネズミやコウモリ、モグラの仲間は生息確認調査によって捕獲された個体を標本化しました。

問7. 展示されている鳥類の剥製標本は、何点でしょう？

答え 2. 33点

すべての標本は四国産の個体です。トビトハシブトガラスは交通事故死体、他は窓ガラスにあたって死んでしまった個体を標本化しました。

問8. オオコノハズクの目の色は？

答え 2. オレンジ色

鳥の目の色は、種によってさまざまです。剥製に入れる目は専用のガラス玉で、あまり多くは作られないので高価です。剥製の代金の大きな部分を占めています。

問9. アオバズクの目の色は？

答え 2. 黄色

鳥の目の色は種によってさまざまですが、同じ種でもオスとメスで違ったり、成長するにしたがって変わってきたりします。剥製を作る場合は、それらの特徴をきちんと把握していないと、頓珍漢な標本が出来上がる場合があります。

問10. タヌキの前足のつめの数は、何本？

答え 3. 5本

イヌの仲間であるタヌキの前足には、5本のつめがあります。ただし、親指は地面につけることはありません。そのため、足跡には4本の指とつめの跡しか残りませんキツネも一緒です。

問11. アナグマの前足のつめの数は、何本？

答え 3. 5本

イタチの仲間であるアナグマの前足には、5本のつめがあります。タヌキとは違い、5本の指を地面につけて歩きます。アナグマはつめが頑丈で、そのつめを使って立派な巣穴をつくります。ツキノワグマも一緒です。

問12. イノシシの前足のつめの数は、何本？

答え 2. 4本

指先だけを地面につけて歩くので、指先を守るためにつめが大きくなってひづめになっています。イノシシはひづめが偶数なので、偶蹄目の仲間に含まれます。親指は退化してしまって、体の表面には出ていません。4本のひづめの内、前の大きな2本は中指と薬指、後ろの小さな2本が人差し指と小指になります。ニホンジカやカモシカも一緒です。

問13. コウモリの翼は、次のうちどれでしょう？

答え 3. 指の骨がのびたもの

5本の指のうち、長く伸びたのは人差し指、中指、薬指、小指の4本です。親指はあまり発達しませんでした、鋭いつめがついていて、壁につかまるときに体を支えます。手のひらで空気をつかまえて空を飛ぶので、鳥よりも小回りができるといわれています。

問14. モグラの仲間、耳たぶがあるのはどれでしょう？

答え 3. ジネズミ

地面の下にトンネルを掘って暮らすモグラは、トンネル内を移動する際に邪魔になる耳たぶは退化してなくなりました。ジネズミはモグラほどには地面の中にはもぐらずに、地表での活動も多いです。そのため、音をキャッチしやすいように耳たぶがまだ残っています。

問15. 野ネズミのなかで、尻尾が体よりも短いのはどれでしょう？

答え 2. スミスネズミ

スミスネズミは他のネズミに比べると、地面の下にトンネルを掘って暮らすことも多い種です。そのため、耳が小さくなり、尾も短くなりました。一方、あまり地面の下に入らず、木の上にも登って暮らすヒメネズミは、大きな耳と長い尾を持っています。

問16. 夏と冬で毛皮の色が変わるのは？

答え 2. テン

四国に住むイタチの仲間では、テンだけが夏と冬とで毛皮の色が変わります。東日本に住むテンはその変化がもっと激しく、冬になるときれいな黄色に変わります。そのため、東日本のテンを「黄テン」、西日本のテンを「ステン」と呼ぶ場合もあります。

問17. 次の中で、外来種は？

答え 2. ハクビシン

外来種とは、もともといた地域から人によっていなかった地域へ持ち込まれた動物です。ハクビシンは、中国や東南アジアにすんでいます、明治のころ（もしかしたら、もっと前）に日本へつれてこられたと考えられています。最近の研究で、四国のハクビシンと同じ遺伝子を持つハクビシンが台湾にいることがわかりました。

問18. ソウシチョウは外来生物法で、〇〇外来生物？

答え 1. 特定外来生物

「外国から持ち込まない」、「売らない、あげない」、「はなさない」と決められた特定外来生物。これを違反すると、法により罰せられます。ソウシチョウは鳴き声がきれいだということで中国からつれてこられましたが、日本の各地で野生化して数が増えてきています。

問19. アカショウビンは、渡り区分でいう何鳥？

答え 1. 夏鳥

初夏のころ、東南アジアから渡ってきて、日本の森林で子育てをします。高知県では比較的情報が多い鳥で、「キョロロロロ・・・」という特徴的な声が梅雨のころによく聞こえます。森林の中で、昆虫、爬虫類、両生類、カタツムリなどを食べて暮らします。秋には、また東南アジアへ帰っていきます。

問20. ノスリは、渡り区分でいう何鳥？

答え 2. 冬鳥

冬になると、草原や伐開地の上などをゆったりと飛んでいる姿を見かけます。腹面が白く見え、翼に黒い模様があることが特徴です。主にネズミを捕って暮らしています。四国では冬鳥ですが、関東地方では一年中観察できる留鳥です。

さらに詳しく知りたい方は、以下までご連絡ください。

できる限りお答えいたします。

担当者メールアドレス

yachimori@lutra.jp